

イタリアを描く

中山繁信 [著]

Shigenobu Nakayama

彰国社



Ritrarre l'Italia

イタリアを描く

中山繁信 [著]

Shigenobu Nakayama

彰国社



はじめに

イタリアは魅力に満ちた国だ。世界遺産が世界でもっとも多い国として知られているが、そのほか、風景はもちろん、芸術やファッション、そして女性が美しいことも世界の人々を魅了してやまない要因である。

小さな田舎町を歩いていて、センスの良いカフェ（パール）を見つけ、そこで美しい風景を眺めながらワイングラスを傾けて過ごす時間はまさに至福の時だ。イタリアの人々が情熱的だといわれるのは、こうした背景のもとでは誰もがロマンティックな気持ちになるからなのだろう。

さて、私は建築の設計を仕事にしている。設計の仕事には旅はとても大切だ。さまざまな国を訪ね、その国の歴史や街並みを観察することはデザインにおいてとても勉強になるし、手を動かしてスケッチをすることは自分の中にデザインソースが蓄積されることでもある。建築家として、街や風景を観察するポイントは、素早く全体の造形を写しとること、街のカラーを感じとること、そしてどんどん移動しながら記録するのでスピードも大切だ。

イタリアが好きで何度も旅をしたが、どこの街を歩いても絵になる風景に出合い、スケッチブックと鉛筆を取り出す。しかし、旅先では時間や用具などが限られることが多い。そのような時は省略した描き方でよいのだ。たとえ下手でも、美しい風景を見ているだけで幸せに思えてくる。結果はどうあれ描くことが大切なのである。

この著は絵心がない人でも、ちょっとした図法を知っていると絵を描くことが楽しくなるためのスケッチの入門書である。素早く形を写しとったり、少ない色数で着色したり、そんなちょっとしたコツをお伝えしたい。必要なものは紙と色鉛筆、もしくはパステル。自信がある方は水彩絵の具をどうぞ。ぜひ、イタリアだけでなく旅先で楽しみながらスケッチをしてほしい。

2015年10月 中山繁信



| 1章 | Capitolo I. |

画材とさまざまな表現

I materiali e le varie tecniche del disegno

スケッチの旅に出よう——008

さまざまな表現——009

身近な画材、色鉛筆を使ってみよう——010

やわらかな表現が持ち味のパステル——012

マーカーは手軽で発色のよい画材——014

透明水彩に挑戦——016

透明水彩を使いこなす6つのコツ——018

紙の種類は重要——020

さまざまな筆記用具——022

線の練習——024

不透明水彩に挑戦——026

ワインやエスプレッソで描いてみよう——028

| おまけ | ソフィア・ローレンを描く——030



はじめに——003



| 2章 | Capitolo II. |

スケッチと構図の基礎

La base della composizione del disegno

基本的な構図を知る——032

建築様式を学ぶ——033

正面から描く——034

ポルティコやアーチを描く——036

広場を描く——038

塔を描く——040

コロッセオを描く——042

階段を描く——044

橋を描く——046

水面に映った橋を描く——047

| おまけ | 『ローマの休日』のオーダーを描く[その1]——048



| 3章 | Capitolo III. |

色彩と陰影の表現

——心に残った風景を描く

La rappresentazione del colore e delle ombre:
disegnare paesaggi indimenticabili

遺跡はざっくりと描く | ボンベイ——050

シルエットで描く | 山岳都市——052

下描きなしで描く | チンクエ・テッレ——054

エアーカーで塗る | シエナ——056

空気遠近法の似合う風景 | オルチャ渓谷——058

光を表現する | ヴィチエンツァ——060

水面の光 | ヴェネツィア——061

複雑な風景を描く | マテーラ——062

素材感を出す | イタリアの屋根並み——064

| おまけ | 『ローマの休日』のオーダーを描く[その2]——066

| 4章 | Capitolo IV. |

人や生活を描く

Disegnare persone, vita e costumi

イタリア料理を描く——068

イタリアの食器を描く——070

店の看板を描く——071

街の人を描く——072

手づくりのカードを描く——074

地図を描く——076

自動車を描く——078

樹木を描く——079

扉や窓を描く——080

名作家具を描く——082

ホテルを実測する——084

| おまけ | 『ローマの休日』の

ブラッドレーの部屋を描いてみた——094



あとがき——095

身近な画材、色鉛筆を使ってみよう

色鉛筆は着彩用具としては、旅先などではもっとも便利で使いやすい画材である。色鉛筆は線を描くときと、面をきれいに塗りつぶすとき、それぞれにコツがある。薄く何度も塗り重ねていくとムラがなくなる。また、2色以上の色を重ねて塗ると混色されて深みのある色をつくることもできる。線の集積で面を塗る場

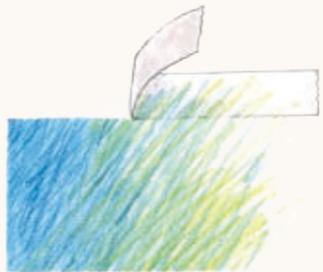
合は、鉛筆の動かし方、すなわちストロークがきれいでなければならない。同じような角度で手首を振るように根気よく何度も塗り重ねることである。

塗る場所の順番は、一般的には遠景から近景へ、また、薄い色から濃い色へと着彩する。



色鉛筆の混色

単色で着彩すると、軽い印象の絵になる。しかし、色を重ねて塗ると深みのある色をつくることができる。たとえば、野原や森の緑を塗るときに、緑の色鉛筆だけでなく、青と黄色を混色した緑を混ぜて塗ると多彩で深味のある自然な風景になる。



マスキング

色を塗ってはいけない部分を養生テープで隠しておき、塗り終わった後にテープをはがす方法である。これは色鉛筆ばかりでなく、さまざまな分野で使われている手法であるからご存じと思うが、定められた範囲がきれいに塗れる。

シングル | クロス | ダブルクロス



ハッチングによる濃淡の表現

広い面積をきれいに塗らなければならないとき、色鉛筆はまだらになりやすい。その場合、旅先では難しいかもしれないが、定規で線を縦横に引き、線の集積で面をきれいに塗る方法がある。シングルハッチング、クロスハッチング、ダブルクロスハッチングなどがある。

二刀流

ある意味、横着で邪道な技である。線で面を塗りつぶすのは大変だから、お箸を持つように鉛筆を2本持って描くという技である。同系色、または補色の色鉛筆を組み合わせると面白い配色効果が得られることがある。



手軽な色鉛筆。携帯性は最強。



ヴェネツィアの仮面——ペン、色鉛筆
色鉛筆は細かなところまで塗ることができるので
繊細な表現ができる。



ヴェネツィアの風景——ペン、透明水彩、パステル、色鉛筆
空はハッチングで濃淡を表現。
水面は線を重ねて表現。



透明水彩に挑戦

水彩を好む人は少なくない。絵の具を水で溶かし、筆で塗るという着彩法は多少面倒だが、水と絵の具の混合の割合によって、無限ともいえる色調がつけられ、多彩な表現が可能だからである。携帯用の水彩絵の具と水入れ、筆がセットになっているものも市販されているので、ぜひ旅先でチャレンジしてほしい。透明水彩は、その名の通り水をたっぷり使って描くため、絵に透明感がある。その上にほかの色をのせると

下の色と混色した色になり、独特の効果を得られる。水彩において、白は基本的には紙の色とする。白い部分を表現したいときには、その部分は塗り残すこと。そして、気をつけなくてはいけないのは、色を重ねるときは必ず、完全に乾いてから素早く塗り重ねることである。また、何度も筆でこすると、紙の繊維が毛羽立ち、色が濁ってしまうので注意する。



携帯しやすいよう固形になっている透明水彩絵の具
パレット、筆や水入れのついている旅行に適したセットもある。

チューブタイプの透明水彩絵の具
広い面積を塗るときに適している。

水入れ。筆はこまめに洗う

固形の透明水彩絵の具

ティッシュ

筆

撮影した写真など

ドライヤー。
乾かすのに便利

スポンジ。
筆に含んだ余分な水を
吸い取らせる。
筆を洗う水が汚れにくい

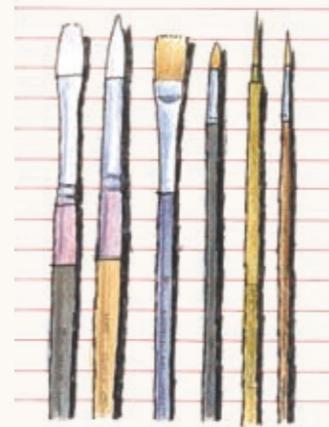
パレット

筆置き

じっくり描くときの透明水彩の道具

旅で描いたスケッチを、家に帰ってから着彩するための用具とその配置。
水や絵の具、筆は紙の上を通らないように右側に置く。

試し塗りの紙。いきなり塗らない



絵筆の形

筆先が丸型、平型、太いもの、細いものなど多くの種類がある。
当然だが大きな絵を描くには太い筆、小さい絵には細い筆、というのが基本。
なお、絵に引いた横のラインは10mm間隔のイメージ。



シンプルで透明感のある
豊かな表現ができる。

白は塗らないのが透明水彩の基本

皿は塗っても、目玉焼きの部分は紙の地を残す。
黄身を塗るがテカリの部分は残す。
要は白色は紙の地の色である。



ヴェネツィアのカーニバル——ペン、透明水彩
鮮やかな原色で大胆に塗ってみる。

スポレート大聖堂——ペン、透明水彩



1 | ペンで下描きし、透明水彩絵の具で薄い色から塗っていく。

2 | 周辺の町並みや石畳などの濃い部分を徐々に塗る。

3 | 空など鮮やかな色を塗り完成。

ポルティコやアーチを描く

イタリアの街の魅力のひとつが路地やポルティコといわれるアーケードの通路である。中世期に築かれた街には戦略的な意味もあり、こうした細い路地が網の目のように走っている。

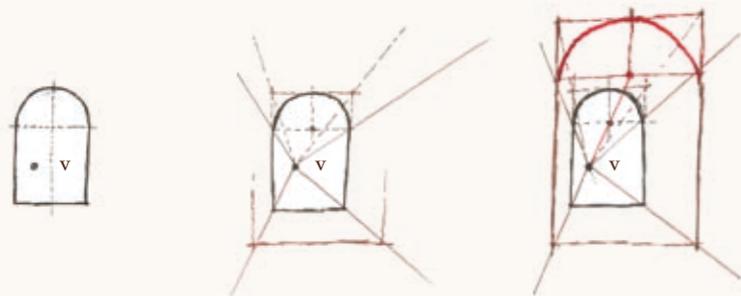
後にこうした道を走れる小型の自動車もつくられたが、曲がりくねった狭い路地は人間のスケールにあっていて、とても気持ちがいい。出窓からぼんやりと外を眺めている老婆、壁や窓の下には美しく花が咲いたプランター、路地の上を見上げると、洗濯物が舞っている。誰もが、こうした路地を歩いていると、スケッチブックを開きたくなるに違いない。

路地やポルティコのスケッチはそう難しくはない。多少の狂いなどは気にする必要はない。路地とは初めから曲がったり、狂ったりしているものなのだから。



ボローニャの路地——ペン、透明水彩

路地の描き方



1 | 路地の間口をとり
適当な位置に消点をとる。

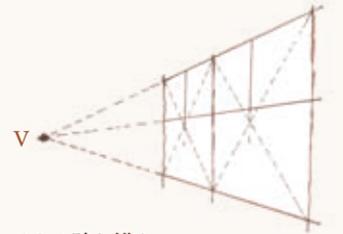
2 | 消点から放射状に
ラインを引く。

3 | 手前に奥の間口の
形を写しとる。

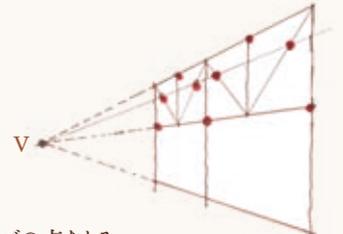
ポルティコの描き方



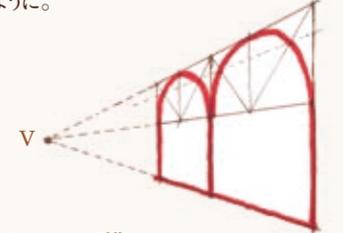
ボローニャのポルティコ——鉛筆、色鉛筆



1 | アーチのベースとなる壁を描く。
対角線を引く。



2 | アーチのカーブの点をとる。
このときとった点が消点に向かって
1本の線にのるように。



3 | 滑らかに結ぶとアーチが描ける。



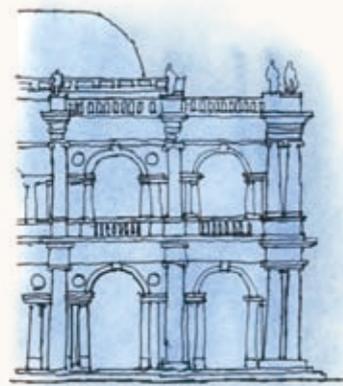
ボローニャのポルティコ——ペン、色鉛筆

光を表現する——ヴィチェンツァ

イタリアの街の美しさは昼間だけではない。夕日の沈む水辺の風景も、街灯の光も、そして、美しい形の窓の明かりは私たちの印象に強く刻まれる。そうした印象深い景色を描き表すのは容易ではないが、少し工夫をすればその風景の何分の一かは表現する

ことができるだろう。ヴィチェンツァのバシリカ(アンドレア・パッラーディオ設計)の回廊の開口はアーチと装飾柱で構成されている。その回廊の開口から漏れる明かりを描いてみた。

窓辺の明かり——ペン、パステル、色鉛筆



1 | パステルの粉をカット綿につけて全体に塗る。



2 | 建物部分を濃くするために二度塗りをする。



3 | 開口の部分と地面に落ちた光の部分を消しゴムで消す。照明を表現するために、少し黄色みを入れる。



4 | 内部の様子や人間を描き加えると、絵により現実味が出る。

水面の光——ヴェネツィア

ヴェネツィアの風景を描くと、必ず海や運河など水が出てくる。静かな水面の場合は鏡のように線対称に映るが、ヴェネツィアは船の運航や海風の影響で、静かな水面を見ることは少ない。常に小さな波が立っている場合は、ただゆらゆらと建物の影が映っているように表現すればよい。不透明水彩では、ホ

ワイトや濃いブルーを塗ればよい。また、パステルで着色するときは、水面全体を着彩し、波の部分を消しゴムで消す方法もよいだろう。



ヴェネツィアの大運河の風景——ペン、パステル
パステルで全面を塗った後、
ハイライトとして水面やドームの屋根などを
消しゴムで白く抜いていく。



ヴェネツィアの夕景——ペン、パステル、色鉛筆
建物のシルエットを描き、
パステルと色鉛筆で夕日と窓の明かりを描く



サン・マルコ広場——ペン、色鉛筆

地図を描く

旅をする際には旅のルートを示す地図を描いてみる
とよい。旅行記に添えると思いがより深くなる。訪
れる街の地図を描き、宿泊するホテル、また駅やラ
ンドマークとなる建物やぜひ訪れたい場所をプロット
しておけば効率よく歩くことができるはずである。
描くことはただ記録するだけでなく、記憶すること
でもあるから訪れた街で、自分が歩いている場所の位
置関係が理解できるのである。私もある街で夜の商

店街を歩いていて、迷ったが、記憶にあった地図の
おかげでホテルに戻れたことがあった。

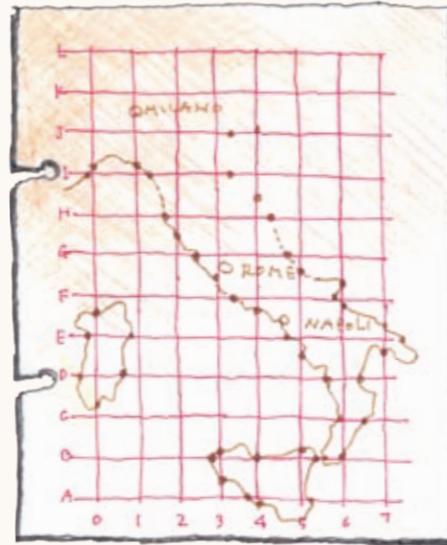
ヨーロッパの地図——ペン、透明水彩
イタリアはブーツの形



大きな地図の描き方



1 | 下絵となる地図にグリッド(方眼)を引く。

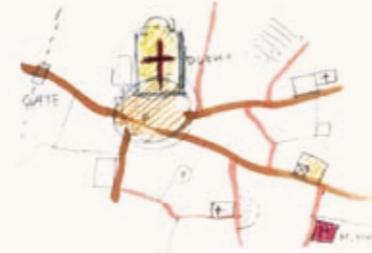


2 | 別の紙に同じグリッドを引き、
元図を見ながら形を移していくと正確に描ける。

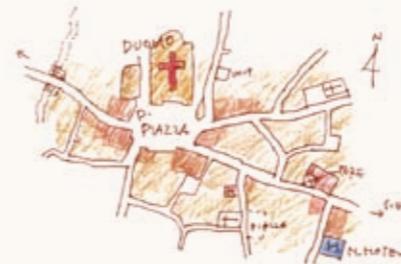
街の地図の描き方



1 | 主要な建物、施設と幹線道路を描く。

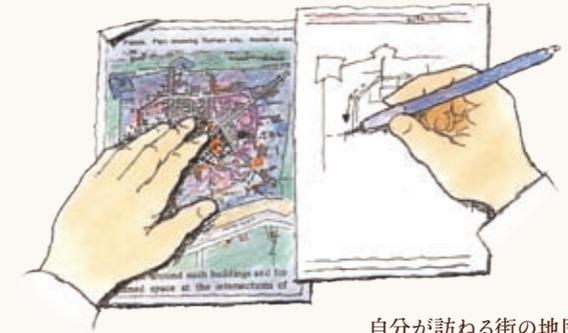


2 | 小道と道路に面する主要な建物を描く。
距離などは適当でよい。
宿泊するホテルをプロットするのを忘れずに。



3 | 実用には2のままだもよいが、
道幅や建物を描き地図らしく仕上げる。

サン・ジミニャーノの地図——ペン



自分が訪ねる街の地図を写しておく
街の構造が頭に入って忘れにくい。



旅行の日程を地図に描いてみる。

